

S: 情況 ……その1

◆古文書の価値:

フランシスコザビエル氏（室町時代）が日本国内の布教活動のおりに驚いた「日本国民の識字率の高さ」。

日本の各地域の僧侶方が、地域集会のおり、読み書きに興味のある子供たちに寺子屋・手習い所の原型となる教える場の中心となり、識字率が高まる。古文書は各地域における「**文明地域の証し**」である。

◆各地域の唯一の証拠:

各地域にある「真似ができない記録」。「**文明地域**」として形成されてきた「その地域独自、唯一の**証拠物**」となる。

◆“**世界遺産に相当(動画)**”:

と日本の「古文書の価値」は海外学者方から賞賛されている。しかし各地域に死蔵されている「古文書の価値」に値する対策が、ほとんど為されてはいない。 情況

◆今ある古文書:

は「天災・人災」さまざまな「消滅・廃棄の危機」を乗り越えて今存在する。

各地域におけるさまざまな保存環境において、偶然に、故意に、その存在が継続している。

◆劣化と廃棄:

古文書の中において、経年劣化で開きにくくなった「古文書」は、現在「補修費用が高価」なため、多くが手を付けられない。温湿度管理・空調管理・虫損対策がしっかりとされることないままに劣化し、内容の確認さえされないまま、“ゴミ”として廃棄され続けている古文書が多々ある。

◆地方の“宝”:

廃棄されると、二度とその記録に辿り着け無くなる。**廃棄は取り返しが見つからない行為**。古文書があった存在すら確認ができなくなる。各地域の唯一無二の“宝”である古文書が、相応に大切に扱われていない場合が多い。

◆日本人の仕事:

古文書は、日本の各地域が所有する独自の記録（オリジナル）であり、各地域の地名、氏名など個人情報が多々記載されているため、補修・撮影する作業は**日本人が行うべき仕事**。機密保持、守秘契約を結びながら日本人が担当すべき内容の仕事。（海外の業者に仕事を担当させるべきではない仕事の内容）

◆郷土の繁栄:

「古文書の救済」は、各地域の子孫への地域特有の歴史の継承、博物館・郷土資料館などの **観光資源** の強化となる。

災害記録の見直し（**災害対策**）にも繋がる。しかし積極的な救済が進んでいない地域が多い。 情況

S: 状況 …その2

◆ボランティアでは追付かない:

高齢者などの一部はボランティア活動により、「補修」と「撮影」を展開している地域もあるが、「古文書の数量」に適応できてはいない。補修とデジカメ撮影の**予算がほとんど無く、多くが放ったらかし状態**。 状況

◆専門技能の伝授は困難:

専門会社が所有する技能は、各企業が永年培ってきたノウハウ・技術であり、それらが「飯のタネ」として商いで差別化して生計を立てている。好んで全ての**技能を公開する会社は皆無**にちかい。技能の公開を実行すれば「古文書救済会」と「指導にあたる業者」との「仕事の奪い合い」。または「価格のたたき合い」につながる。

プロのある企業が、それらを見做して「技能を You Tube 等で公開・指導」をさせると、

既存企業の業態が成り立たず多くが廃業にむかう事となり得ない。

クールジャパンの本格的な実現には、国家プロジェクトとして技能を**“養成させる”**新体制が必要不可欠。

・「**長期にわたる予算化**」(短期では職人化が成立しない)

・「**競業しにくい新しいルール**」の実現が必要不可欠である。しかしその「傾向と対策」に動く体制が少ない。 状況

◆「在宅の作業」へスライドできない:

在宅業務としてスライドする事が可能な仕事であるが、条件として熟練工のみ(指導者無しの技能レベル・4.5畳の場所・設備・耐火金庫と各契約の了解)であれば、ゆくゆく**在宅における技能業務**として機能できる。次世代へ引き継げる「在宅技能の伝授の仕組み」の第一歩とできるが、技能伝授をさせてゆく仕組みが無い。 状況

◆クールジャパンの根幹:

「読み書きそろばん」、主婦はパソコン・デジカメ操作等の操作等、諸外国と比べて**非常に高い仕事能力が日本の“宝”**。

◆女性(主婦)の都合:

「**子育て**」や「**親族の介護**」により、在宅勤務が必要。しかし在宅発注できる仕事量が不足している。また、

「**扶養控除の規制**」から外されたくない事を希望する主婦層が「**自ら仕事を制限**」する事が多発。 状況

◆仕事場の不足:

「技能者が少ない」「人件費が高価」「その対策を実現する仕組みが無い」為に、仕事の発注量が増えない。

ゆえに手作業等の簡易な仕事をこなせる能力を持つ人材が急遽増えたとしても、それを活かせる場所(環境)が不足。

働ける能力があるにも関わらず、働こうとしない人口の増大。(高齢者・主婦・身障者)+(若人)

力仕事、高度能力仕事は、若人など時給1000円以上の領域を維持し、それ以外の仕事の「需要と供給」のバランスを考慮した「仕事提供の体制」がほとんど成されていない。

◆社交場の不足:

「**病院の待合室**」が**“社交場”**(コミュニケーションの場)と兼ねる事が多発。

「**¥42兆**」/年の国民医療費負担の益々の増加に繋がる。冬暖かく、夏涼しい「コミュニケーションの場」が不足。

(新しい社交場の設立が、医療費**負担の軽減**に繋がるのに、現実ほとんど出来ていない) 状況

S: 状況 …その3

◆老齢者比率の急増:

60歳（定年退職）以上の老齢者人口比率が年々上昇してゆくが、その職場を用意する準備が不足している。

クールジャパンの根幹（手先が器用・コツコツと真面目に仕事する人が比較的多い）

健康である程度働けるが、働かない、働こうとしない理由…給料が付加されると従来の年金減額に繋がる規則。 状況

◆老化の防止: 細かい作業を手先で行う仕事なので「仕事 兼 老化防止対策」として機能。

◆外貨の獲得:

老齢者・古文書補修者のプロ化・熟練工が可能となれば、内需拡大からゆくゆく「**外貨の獲得**」につなげることができる
技術者集団となれ、熟練工がネズミ算式に増える仕組みの基礎となる。他、各分野においても技能養成の円滑な伝授
が整い、規則の一部見直しが整えば「海外からの受託」が可能とできる。しかし現時点では仕組みが無く不可能。状況

◆仕事の発注:

は日本も世界も **人件費が安価な東南アジア諸国に集中**。 **“国内外から受注”**する仕組みが不足。 状況

◆単価が高い原因:

熟練を要する仕事は伝授されにくい（“**見て覚えろ**”という保守の習慣・修行期間を設けてなかなか教えない習慣）。

派手さの無い「**地道な作業**」であれば、新卒社員が育ちにくい。ために仕事自体が「コスト高」となる。

各地域では高価な単価ゆえに予算も予定もつきにくい。**熟練者が多く育つ仕組み**を考え、業務の**発注の増加**が無い限り、熟練者の教育は進まず、「地方の古文書の崩壊」を防ぐ事もますます困難。 状況

◆低価格化:

電子入札において、下請け禁止の業務でも違反した大企業の進出が有り、内々の伝票通しの習慣が無くならない。

下請け禁止の違反・電子入札等による大手企業の低価格落札と下請け禁止を違反する企業が多く

（下請け職人側は搾取される立場になりやすい）、技能の実力者のある中小企業の成長を阻害する仕組み、が存在。

◆予算化を急ぐ:

例えば「雇用促進予算」等、短期予算のために職人化養成が進まない仕組みとなる。

老齢者・主婦において、働けるにも関わらず「働かない理由」。

★「自己の都合」…子育て・親族の介護 等で働けない（在宅仕事が多くあれば働ける…との希望あり）

★「従来の規制」…【働くと“損”】年金減額制度・最低基本賃金制度・扶養控除制度等の各規約があり、それを遵守すると、**世界の視点**からみた「仕事を**発注する側**」、そして「**受注する側**」の**不都合**に合う。

（一億総活躍社会の実現には、一部**法令改正**の検討等で**解決できる可能性のある方法が実行されていない**） 状況